



世界を知る It knows the world.

このページは世界を知るをテーマに「国際協力」については、独立行政法人国際協力機構(JICA)デスク熊本や、国際交流、協力分野で活躍している皆様のご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介します。

サモアの学校で—先生達の子育て

青年海外協力隊 平成22年度4次隊 佐藤 庸介さん
(サモア派遣、職種:PCインストラクター)

マーロー!(サモア語でこんにちは)

私は2011年3月から2年間、青年海外協力隊のPCインストラクターとして南太平洋の島国サモア独立国で活動してきました。今回は、私がサモアで見た「学校での子育て」について話をさせていただきます。



PC教師向けのワークショップ

私が勤務していたのは、首都アピアから車で15分ぐらい離れたファレウラという村にあるメソジスト教育委員会が運営しているウェスリーカレッジです。日本でいう中学から高校に当たる生徒達が通っています。生徒数は約800名、教師数は約50名と、かなり大きい学校です。

赴任してすぐに気がついたサモアと日本との違いは、先生達が自分の子供を学校に連れてくることです。毎朝の職員会議の時には、数人の先生が、赤ん坊から3歳ぐらいの子を連れて来ています。その先生達は、授業中板書をする時など自分の子どもに構ってられませんので生徒に預けます(時には携帯電話をする折も!)。預かった生徒は、抱き上げてあやしたり、授業中にもかかわらず教室の外に出て子どもの面倒を見たりします。また、近くにいる上級生に任せることもあります。上級生は選択科目により授業を受けなくて良いコマがあり、暇にしていることがあります。しかし実は、年度末に実施される国家試験の受験生なのですが…。

このように生徒が子守りをする事で、授業をまともに受けられない生徒がでることや、上級生の学習時間を減らすことになるため、最初は生徒の勉強の邪魔だと思って、私はイライラして見ていました。しかし、世話をする生徒は迷惑に思うどころか喜んで子どもの相手をしています。一組の夫婦に子どもが5~6人いて当たり前、そして夫婦一組だけではなく、その兄弟を含めた親族も一緒に住む大家族が当たりのサモアです。大抵の生徒が小さい弟や妹、甥や姪やいとこが家にいるので、子どもの相手は慣れたものです。抱きかかえる誰もがキスをし、優しく接しています。

そして預けられる子供も、普段から沢山の家族に抱かれたりしているので、全く人見知りをしません。誰に抱かれても嫌がること無くニコニコしています。時には、ウロウロ勝手に歩きまわって、見ていてあげなければ何をするか分からないところもあります。そんな子どもたちをみているうちに、私の「イライラ」はいつの間にか「可愛いなあ」に変わってきました。このような状況は、仕事のあり方として良くないとは思いますが、しかし、何事も「アフレポレ(サモア語で「心配するな」)」の精神のあるサモアです。父、母にこの話をしたところ、50年ほど前の日本と似ていると言っていました。少子化・核家族化が進み、子どもを育てにくい環境にある現代日本からみると、とても羨ましく感じませんか?



学校の先生方と子供達